令和５年度　江戸川区立西小松川小学校　学校関係者評価　最終評価報告書

学校教育目標	○考える子（自ら課題を見つけ、考え、解決できる）「なるほど」 ○やりぬく子（粘り強く学んでいける）「できる」 ○明るい子（笑顔で元気に挨拶できる　仲間のよさを認め合える）「ありが	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○家庭や地域から信頼される学校 ○学ぶ喜びを感じる児童 ○学年経営を軸にしたチーム力を高め、多様な児童理解による教育の推進
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞・「教科担任制」の校内研究を通した、教員一人一人の授業力向上。 ・OJTを活用した若手教諭の人材育成や児童指導力や保護者対応力の向上。 ・特別支援教室巡回指導教員、スクールソーシャルワーカー、はあとぽーとと等との連携と多様な児童理解。		＜課題＞・ICTの積極的活用と情報教育についての共通理解。 ・にしこスタンダードを基にした、学習規律の徹底と全校で共通した授業の展開。 ・要配慮児童への共通理解に基づいた円滑な対応や健全育成を図るための関係機関との連携。

教育委員会重点課題	＜取組項目＞・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価 取組	自己評価 成果	自己評価 成果と課題	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 コメント	来年度に向けた改善策
学力の向上	＜学力の向上＞ ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・全校漢字計算テストの実施と分析 ・委託業者による放課後補習教室の実施 ・ミライシードの活用 ・各教科における探求的な学習を重視した授業改善課題の設定→情報収集→整理分析→まとめ・表現の学習の流れを授業で活用 ・教科担任制の効果的な運用と段階的な導入 ・「学習のやくそく」を各教室に掲示、学習規律の徹底	・漢字テスト、算数ベーシック診断テスト全員実施と分析…年間2回　平均正答率(漢字9割以上、算数8割以上 ・各学級4～5名の児童を対象に、毎週1回放課後補習教室を実施…全体の出席率9割以上 ・ミライシードの活用…全学年、実施率10割 ・月1回の学力向上委員会において、学習の約束の定着や各教科の探求的な学習の実施状況を定期的に確認する。 ・教科担任制による指導を通して、児童一人一人の学力の向上を図る…まとめテストの達成率8割以上 ・学習規律に関する児童アンケートの肯定的な回答…7割以上	A	B	○学年で連携を深め、教科担任制による指導が充実した。校内研でも教科担任制を取り入れ、日々の授業改善につながった。まとめテストの達成率はいずれの教科も8割以上であった。 ○学習規律に関するアンケートの児童の肯定的な回答…8割5分以上 ○主幹、主任教諭が講師となり、夏季休業中にOJT研修を行った。夏季休業中の各校代表1名による研修について、参加教員が伝達講習を行った。 ○ミライシードの定期的な取組（毎週金曜日の宿題）が定着してきた。 ●2～6年生の児童において、計算テストの平均正答率8割を超えたのは3つの学年、漢字テストの平均正答率9割を超えたのは、2つの学年である。 ●放課後補習教室はほぼ10割の児童が出席できているが、個々の課題に適した学習内容かを検討し改善していく。	A	・先生方の地道なご指導が実を結んだのだと思う。 ・児童の学力と人間力（人の心がわかる子）の向上を一歩一歩進めてほしい。 ・タブレットをもっと楽しく、ゲーム性をもって活用できないか。	・低学年で加法・減法・九九の確実な定着を目指す。授業内で計算タイムを確保する。 ・漢字の学習については、新出漢字の指導にとどまらず、授業や宿題の中で、繰り返し取り組ませ、定着を図る。 ・校内のOJTや研究を活用し、探求的な学習を重視した授業改善をさらに進めていく。 ・放課後補習教室による効果をさらに高めるために、学習内容や指導方法、評価の仕方について、講師と連携を図って改善していく。診断テストの結果を分析し、四則計算の定着を目指し、各児童の状況に応じた指導を行う。 ・放課後補習教室の時間以外に担任が補習する時間を確保し、児童が学習の丁寧な反復と繰り返しが行えるようにし、児童の基礎的・基本的な学力を向上させる。
	＜読書科の更なる充実＞ ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・総合的な学習の時間や各教科と関連させた、調べ学習等における図書資料の積極的な活用 ・総合的な学習・読書科等において思考ツール等を用いた探求的な学習の実施 ・図書館整備を行う図書館整備ボランティア募集に向けた準備を進める。	・学習機能としての図書館活用、児童の利用率の向上…全校児童の9割以上の利用 ・思考ツールを用いた学習の実施…各学期1回以上 ・バーコードの導入 ・ボランティアによる図書館整備…各学期2回以上	A	B	○バーコードの導入により図書館が利用しやすくなり9割5分以上の児童が図書館を活用している。 ○各学年、各学級において、思考ツールを用いた学習を定期的に行えている(2か月に1回程度) ○低学年の児童を中心に、図書室の利用の仕方や運書の工夫について、図書支援員から指導していただく機会を設けることができた。 ●調べ学習等に活用できる図書資料を増やす等、蔵書整理にカを入れていく必要がある。	A	・児童の読書の習慣が身に付いている。 ・読書ボランティアが再開されたようでよかった。 ・読書をすることで感情が豊かになり、優しい大人に成長していくはずである。。今後も児童の読書の推進に力を入れてほしい。 ・図書ボランティアとすくすくスクールなどの連携を深められないだろうか。	・今後も図書支援員との連携を深めるとともに、来年度はボランティアも募集し、さらに蔵書整理等に努めていく。 ・調べる学習コンクール等の活動と連携し、図書館利用の幅を広げていく。
体力の向上	＜運動意欲や基礎体力の向上＞	・体育学習スタンダードを活用した授業改善 ・運動遊びの計画的な実施 ・短縄(リズム縄跳び)、長縄、ランニング月間の実施	・体育学習における校内研修を年3回実施する。 ・月1回の体力向上委員会において、体育学習スタンダードの見直しと改善を図る。 ・運動遊びを毎週1回実施 ・短縄、長縄、ランニング月間の実施…各年間1回(期間：1か月程度)	A	B	○夏季休業中に体つくり運動の実技研修会を行い、日々の指導に生かすことができた。 ○長縄の取組は児童の実態に応じて、確実に実施することができた。 ○月1回とまではいかないが、体育学習スタンダードの共通理解と見直しができた。 ●ねらいを明確にした運動遊びの確実な実施。	A	・様々な体の動かし方を身に付けていくことで、基礎体力の向上に努めてもらいたい。 ・大谷選手からのグローブを活用して、野球に挑戦する児童が出てくるとよい。	・体力向上委員会において、体育学習スタンダードの具体的な見直しと改善を定期的に図り、児童の体力の向上に努めていく。 ・次年度は各学期に短縄週間を設定し、児童の体力向上を図る。
共生社会の実現に向けた教育の推進	＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・ユニバーサルデザインに関する掲示物の作成 ・誰もが分かりやすい学習環境の整備 ・特別支援教育の視点を取り入れた授業の研修 ・教員一人一人が特別支援教育についての理解を深め、指導に生かす ・エンカレッジルーム活用促進に向けた教員の分担 ・個別指導計画に基づく指導力の向上	・学校評価アンケートにおける特別支援教育に対する肯定的な回答…8割以上 ・全学級書画カメラを整備と効果的な使い方についての校内研修会を実施 ・巡回指導教諭や心理士、SCと面談…年間3回実施 ・毎時間のエンカレッジルームの担当教員を配置 ・配慮を要する児童の個別指導計画の作成と改善…各学期1回	A	B	○エンカレッジルームの担当教員を配置し、在籍の学級担任と密に連携を図れている。 ○個別指導計画については、巡回指導教員と情報共有しながら、それぞれの児童の評価と今後の具体的な目標設定ができた。 ○書画カメラの活用研修により、効果的な活用のスキルが高まった。 ○3学期に巡回指導教員が2年生に向けて授業を行い、児童や担任の特別支援教育に対する理解が深まった。 ●学校評価保護者アンケートにおける特別支援教育に対する肯定的な回答が68%であった。これは「わからない」を選択した方が24%もいたためである。「わからない」を除いた肯定的な回答は89%であった。活動自体の周知の仕方が今後の課題である。 ●教員一人一人の特別支援教育についての理解を一層深めていく必要がある。	A	・特別支援教育に対する取り組みは継続的に行ってほしい。今後、保護者の理解力が深まるはずである。 ・特別支援教育についての理解が深まることで、学校生活が豊かになると良い。	・児童や保護者に対して、特別支援教育についての理解を深めるための方策（体験授業、保護者会での説明等）を検討する。 ・巡回指導教員とより一層連携を図り、教員の特別支援教育についての理解を深め、個別指導計画に沿った指導改善を積極的に行っていく。 ・エンカレッジルームの担当教員の役割を明確にし、在籍担任や特別支援教室専門員との連携を深め、児童が安心して登校できたり、居場所が確保できたりするように支援する。 ・次年度の学校評価アンケートの特別支援教育についての設問に、本校が行っている活動を具体的に表記し、保護者の理解推進につなげていく。 ・特別支援教育についての研修を年に1～2回行う。
子どもたちの健全育成	＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞ ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用 ・SNS学校・家庭ルールの見直し	・いじめ防止対策委員会や不登校対策委員会、生活指導夕会による情報共有を行い、いじめや不登校の未然防止と早期解決につなげる ・SSW等関係機関との連携 ・hyper-QUの実施と分析、活用に向けた研修会の実施 ・長期休業日前のSNS学校・家庭ルールの計画的な見直し ・にしこスタンダードの徹底	・いじめ防止対策委員会、不登校対策委員会の実施…毎月1回 ・生活指導夕会の実施…毎週1回 ・いじめ調査の実施（年間3回） ・SSW等関係機関との連携…年10回以上 ・hyper-QUテストの実施と分析、授業改善…年間2回実施 ・SNS学校・家庭ルール・にしこスタンダードの見直し…年間2回	A	B	○生活指導夕会等を通じて、各学年の児童の情報交換ができ、児童理解が深まっている。 ○いじめ防止対策委員会の位置付けや役割を明確にし、年3回実施するいじめ調査や学年会、生活指導夕会を通じて、いじめに関する情報共有を行う体制作りができている。 ○hyper-QUの結果分析について夏季休業日に研修会を行い、各教員が分析の仕方を学び、各学級で活用することができた。 ●いじめや児童の問題行動について、さらなる早期発見と早期解決を意識した初期対応が必要である。 ●にしこスタンダードの緩かな共通理解が必要である。	A	・いじめはだれでもどこでも起こり得るという意識で、組織的に児童を見取り、対応していくことが大切である。 ・いじめに対して早めに気付き、対応を行える仕組みを再検討してほしい。 ・目安箱を置く等、児童が自分の思いを伝えたり、誰かに相談できたりする窓口を増やしていってほしい。	・hyper-QUの結果と日々の観察や面接などを組み合わせながら、児童一人一人の実態や学級集団としてのまとまりの様子を明確に捉えていく。また、それぞれの学級の課題への対応策について、生活指導夕会や全体会を活用しながら情報共有を図っていく。 ・今後もいじめ対策委員会や不登校対策委員会の役割を明確にし、全教職員でいじめや不登校、その他の問題行動についての早期発見と早期解決に努めていく。 ・生活指導部会を中心に、にしこスタンダードの共通理解と改善を行っていく機会を定期的に設ける。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	＜自校(園)の取組の積極的な発信＞ ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・行事や児童会活動、日々の教育活動について、随時学校ホームページに掲載する。 ・学校公開において、各教科や総合的な学習の時間等をバランスよく公開し、公開アンケートを実施・活用する	・各行事や児童会活動についての学校ホームページの更新…実施後必ず掲載する。 ・各学年の教育活動についての学校ホームページの更新…週に1回以上 ・学校公開アンケート…年間3回実施 ・アンケートにおける肯定的な回答…8割以上	A	B	○学校公開アンケート(1, 2学期)、運動会アンケート、学習発表会アンケートの肯定的な回答が各項目において9割以上であった。 ○各学年の学校ホームページの更新の頻度が全体的に高まり、保護者に学校行事のねらいや活動状況などを周知している。 ○学校公開において各学級で教科・領域をバランスよく公開することができた。 ●学校ホームページの更新頻度が学年によって偏りが見られる。	A	・学校ホームページの更新については、学年によって偏りがあっても、学校の活動状況が見られるので満足している。 ・ホームページ以外に学校の様子が伝えられる媒体があると良いか。SNSの進化に対応すべきである。	・学校ホームページについては、管理職や担任、専科など、内容によって分担しながら計画的に更新し、児童の様子や学校全体の取組を保護者や地域に積極的に伝えていく。
	＜学校関係者評価の充実＞ ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校評議委員会との連携、活発な意見交換 ・外部アンケートの実施・活用	・学校評議委員会…年間3回実施 結果の分析と教育活動の改善内容を年1回以上公表 ・外部アンケート…12月に実施、2月に結果を公表	A	A	○学校評議委員会との連携が図れている。 ○1学期の会で、学校関係者評価の年度当初報告について、好意的に受け止めていただいた。 ○外部アンケートを基に各部会・委員会で検討し、来年度に向けての計画や改善を行えている。	A	・学校評議委員会で話がまとまった田畑の整備の件については、実際に学校に協力できてうれしかった。 ・学校の発信する思いを受けて、それらを広めていく町会等の地域の取組を考えていかなければならない。	・学校が直面している課題（働き方改革等）についても、ご相談していきたい。 ・年3回設定している学校評議員会以外にも、積極的に交流し、よりよい学校運営の実施に努めていく。 ・学校公開の参観を含めた学校評議委員会を開催する。
特色ある教育の展開	＜マーチング活動の充実＞ ・マーチング活動の年間計画に基づく取組の実施	・マーチング委員会を中心に、計画的な活動の実施 ・全教職員による児童への指導体制の確立	・マーチングの発表機会…年間4回以上 ・外部アンケートにおけるマーチング活動に対する肯定的な意見…9割以上 ・児童アンケートにおけるマーチング活動に対する肯定的な意見…9割以上	B	B	○中央地域まつりに6年生と5年生の一部の児童がマーチングが参加できた。 ○児童アンケートにおけるマーチング活動に対する肯定的な意見…9割5分以上 ●児童全体の意欲の向上 ●今後のマーチング活動の在り方や朝練習の時の看護体制の見直しを図る必要がる。	A	・様々な問題があると考えられるが、マーチングの活動がより良い形で存続していくように、学校内で検討し、保護者や地域と連携を深めながら、活動の方向性を明確にしてほしい。 ・地域資源を存分に活用してほしい。	・マーチング委員会の役割を明確にし、児童の意欲を高められるよう、今後のマーチング活動の位置付けや方向性を考えていく。（教員の働き方改革も考慮していく） ・今後もPTAや地域等にマーチング活動に対する協力を依頼し、最適な方法を考えていく。 ・地域資源を活用した学習を定着させ、特色ある教育活動の1つとする。
	＜兄弟学年班活動の充実＞ ・特別活動全体計画に基づく取組の実施	・兄弟学年班遊びの実施 ・兄弟学年班によるなかよし読書や全校連足等の実施	・兄弟学年班遊びを学期に1回、年間3回実施 ・兄弟学年班によるなかよし読書を年2回実施 ・児童アンケートにおける兄弟学年班活動の肯定的な回答…8割以上	A	A	○兄弟学年班遊びやなかよし読書については、児童が意欲的に活動し、計画的に実施できたことで、学校生活全体において異学年交流におけるよい影響が出てきた。 ○児童アンケートにおける兄弟学年班活動の肯定的な回答…9割以上	A	・すくすくスクールでも異学年交流が盛んで、良い影響が出ている。	・児童同士の交流が一層図れるような活動や遊びの工夫の視点を上学年の児童を中心に指導し、全体に広げていく。 ・兄弟学年班を1・6年、2・4年、3・5年の組み合わせとし、活動の充実を図っていく。